

もくじ Contents

- 3 市政だより
 - 市政功労者表彰
- 4 特集
 - 発達障害のこと、知ってますか?
- 8 市政だより
 - 市役所組織機構の変更
 - グリーンヒルズ津山
 - 津山さくらまつり
 - 狂犬病予防注射
 - 日曜日開庁
 - 消防団員募集
 - 津山への提言 ほか
- 12 ふおとほっとるぼ
 - 沖縄国際映画祭・地域発信型映画『ホルモン女』ロケ ほか
- 14 みんなのページ・ちゃい
 - お・た・よ・り
 - つやまっ子に贈る100冊の本『エルマーの冒険』
 - きらめく津山人
 - イラスト・絵手紙
 - 広報クイズ ほか
- 17 としょかん
- 18 こどもひろば
 - KIZUNAミニバスケットボールクラブ
 - じどうかん
- 19 けんこう・そうだん
- 20 けいじぼん
- 26 くらし
- 28 Albumあの頃の津山

箕作阮甫は23歳の時に津山藩の儒学者・大村成夫の養女「とみ」と結婚しました。2人の間には4人の娘が生まれ、次女は幼くして亡くなりますが、3人が健やかに育ちました。

長女「さき」(後にせき)が誕生したのは、文政6年(1823)、阮甫が3年間の江戸詰を命じられて、津山を出発したわずか8日後のことでした。「とみ」と「さき」は養父の大村成夫方に預けられました。阮甫は江戸で勉学に励みながらも、しばしば妻子のことを語っていたといえます。4年後に阮甫が国元に戻り、ここでようやく家族一緒に暮らせるようになったのです。

天保2年(1831)、再び江戸詰を命じられた阮甫は、今度は家族を伴って江戸へ向かいます。この時「さき」が9歳、三女の「つね」は4歳でした。その頃の箕作家の暮らしは苦しく、娘たちも家事をよく手伝ったといえます。

やがて成長した「さき」は18歳で婿養子を迎えますが、性格が合わなかったのかすぐに離縁し、後に江戸詰の広島藩医・呉黄石に嫁ぎました。黄石は阮甫らが種痘所を設立した時に一緒に尽力した蘭方医で「さき」との間に三男四女をもうけています。

江戸で生まれた四女「しん」(後にちま)は阮甫の門人の佐々木省吾を婿養子に迎え、一人息子の貞一郎(麟祥)が生まれました。「つね」もまた阮甫の門人の菊池秋坪を婿養子に迎え、奎吾、大六(大麓)、佳吉、元八という4人の息子が生まれます。幕末から明治にかけて

洋学博覧漫筆

～ 阮甫と4人の娘たち ～

海外へ留学した彼らは、日本の近代化に大きく貢献しました。そして彼らの子どもたちからも、多くの学者が生まれています。

明治45年(1912)6月、東京上野精養軒で阮甫の没後50年祭が行われました。参加した近親者53人の中には大麓、元八を始め、憲法学者の美濃部達吉、物理学者の長岡半太郎、後に地質学者として活躍する坪井誠太郎や、東京都知事になる美濃部亮吉らの若き日の姿もあります。

明治から大正、昭和にかけて活躍する学者を多く生み出したことから「箕作の血は学者の血」とまで言われました。そのルーツをたどれば、津山で生まれた箕作阮甫がいます。



▲箕作阮甫没後50年祭 (津山洋学資料館蔵)